川沿地区大雨危険マップ

札幌川沿少年消防クラブ（5年、6年）

2014年は、広島県や高知県などで、大雨による被害がたくさんありました。私達の住む川沿地区でも9月10日から11日にかけて数十年に一度の大雨が降り、避難する人もいました。そこで今までどのような被害にあったか、地形はどのようになっているか、ふだんからどのようなことに気をつけたらいいかなどを調べました。

56水害（ごろくすいがい）

昭和56年8月3日～6日にかけて川沿地区を含む周辺地域に総雨量394ミリの雨が降り、大きな被害を受けました。当時川沿に住んでいた藻岩小の教頭先生にその様子を聞いてみました。

「友人の家が流されそうと聞いて、みんなで運べる物を外に出しました。すると、警察官が来て危ないからすぐに逃げなさいと言ったので外に出て少しはなれた所に行き見ていると家の下の土がどんどんくずれて最後に家ごと流されて橋にぶつかって壊れてしまいました。当時は避難に対する知識がなかったので、今思うととても危険なことをしていました」ということでした。

周辺の山と川

2014年9月10～11日 川沿地区にも大雨が降りました。

豪雨 初の特別警報

10日の夜中、雷が何十回も鳴り、雨もすごい勢いでした。避難勧告が出て藻岩小にも100人位が避難しました。先生方が早朝から学校にある防災用品を配り、ました。防災用品は、体育館の大きさから避難できる人数が決められているので、藻岩小には250人分が用意されていますがもし足りない場合には、近くの2校と助け合って分けあい区役所に連絡して追加してもらうこと。

広島の災害の後ということもあり、早めに避難した人も多かったようです。9月だけど体育館は寒かったよ。なので、防災用品には、防寒の物も用意しておいた方がいいと思いました。

道央90万人避難勧告
札幌市南区で253ミリ

今回の大雨で、なぎたおされた草や木。排水溝にも、草や木が流されてきて、水の流れをじゃまするのでとりのぞくことがたいせつです。

1時間雨量の目安

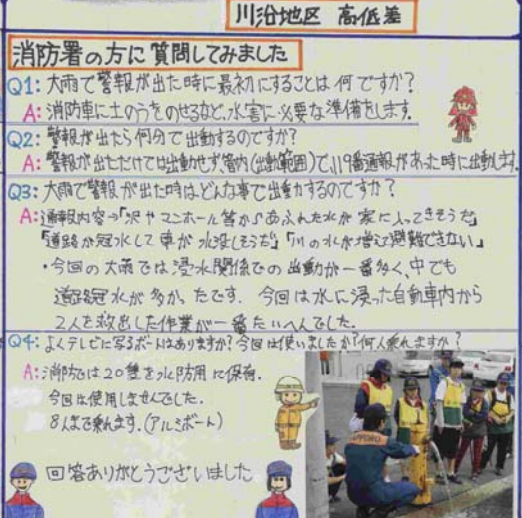
10～20mm（やや強い雨）	20～30mm（強い雨）	30～50mm（激しい雨）	50～80mm（非常に激しい雨）	80mm以上（猛烈な雨）
地面に水たまりができ足元がぬれる。	側溝や下水があふれ、あふれる。	道路が川のようになる。	地下鉄や駅構内に雨水が流れこむ。	大規模な災害の発生するおそれが強い

避難する時には

- 動きやすい服、こうで2人以上で行動する
- 安全な経路を足元に注意して！
- 地下やアンダーパスに進入しない
- 車での避難は控えて、基本は車を放置しない
- 浸水後の避難は危険な場合がある→近くの建物5階以上の2階や近くの高い建物に避難

備蓄品・非常持出品

川沿地区 高低差



消防署の方に質問してみました

Q1：大雨で警報が出た時に最初にすることは何ですか？

A：消防車に土のうをのせるなど、水害に必要な準備をします。

Q2：警報が出たら何分で出動するのですか？

A：警報が出ただけでは出動かせず、管内（出動範囲）で119番通報があった時に出動します。

Q3：大雨で警報が出た時はどんな事で出動するのですか？

A：通報内容→「床やコンセント等から水あふれた水が家に入ってきそうな」「道路が冠水して車が水没（そうぼつ）」「川の水が増えて避難できない」

・今回の大雨では浸水関係での出動が一番多く、中でも道路冠水が多かったです。今回は水に浸った自動車内から2人を救出した作業が一番たいへんでした。

Q4：よくテレビに写るボートはありますか？今回は使いましたか？何人乗れますか？

A：消防局は20隻ほどの防用に保有。今回は使用しませんでした。8人乗で乗れます。（アルミボート）

回答ありがとうございました

まとめ

- 自分の住んでいる場所の状態をよく知る！
- 水害・地震・火事などによって避難する場所が違う場合があるので確認しておく！
- 避難する時に注意することを知る！
- 今まで被害がなかったからといって安心しないで、天気予報やニュース気をつけて見るようにする。

今年の豪雨は56水害ほどの被害にはなりませんでしたが56水害時の雨量をふまえて、今後も対策を考えていかないといけないと思いました。
地域で協力しあってより安全に暮らしやすい所であるように私たち一人一人も努力していきたいと思います。

作成者

品川・及川（佳）・北出・恒本・及川（浩）
佐々木・渡辺・宮島・塩見・中田